

一般質問

9月定例会



伊藤 好晴 議員

Q 保険料軽減措置は継続を

厚生労働省は、後期高齢者医療制度の保険料軽減特例措置を廃止する方針だ。もともと75歳以上の高齢者は、市町村国保、組合健保、政管健保などの医療保険に加入し、扶養親族として健保に入ることもできた。しかし平成20年、75歳以上の高齢者対象の医療保険に強制的に加入させられた。制度に対し国民から激しい反対が起こり、保険料軽減の特例措置が導入された。激変緩和のための恒久的な措置と理解している。

本則保険料になると、2倍から10倍以上の負担になる。深刻な受診抑制につながり、高齢者の健康を守ることもおぼつかない状況に陥る。

年金も段階的に引き下げられており、この状況の中での負担増は許されないと考えるがどうか。



町長 山崎 英樹

A 動きを注視し、要望する

対象となる被保険者に不安が生じないような配慮が必要であり、激変緩和措置を講ずるなど、被保険者が混乱しないようにすることを町村会で要望している。

動きを注視し、必要ならしめるべき要望を行いたい。

Q 行政も葬送に一役を

天涯孤独のお年寄りや身寄りのない方で、自身の死後に不安を持っている方が多いことがわかった。

現在は法律に基づいて、市町村が遺体を引き取って埋葬している。費用は、亡くなった方の遺留金品で賄い、不足部分は市町村が立替え、最終的には県が負担している。

身寄りのない方や家族や親戚と疎遠になっっている場合、看てもらえないということも十分考えられる。イターンした方の中にも該当があるかもしれない。

その方々と行政、葬儀執行者の3者で生前に契約を結んでおけば、葬送まで行うことができると思う。

町のオンリーワンの施策として要綱に定めて実現し、不安を取り除くことを提案し、考えを問う。

A 仕組みを研究する

町長 山崎 英樹

質問を真摯に受けとめた。要綱により、そういう人々の不安を取り除くことができるなら意義のあることと思う。気持ちはいっしょに通じたところである。

このような仕組みづくりで死後の不安を解消できるなら研究したい。



一般質問

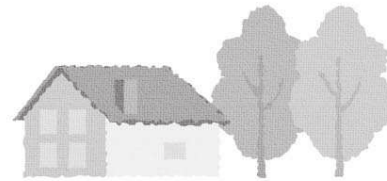
9月定例会



門 眞一郎 議員

Q U・イターン定着を

人口減少対策には、U・イターン者の定着率が低いことの原因除去が必要だ。各世代の人口バランスと人口維持が本町の行政サービス水準維持のため不可欠だ。定着率が伸びない原因と解決策をどう考えているのか。また、U・イターン促進のための新たな対策は何か。



A 総合戦略達成で

町長 山崎 英樹

飯南町人口ビジョン達成に向け「総合戦略」の実行が達成の力となる。

U・イターン者定着の阻害要因は、仕事のミスマッチ、地域との人間関係、住環境への不満などだ。

地域への溶け込み、人間関係の構築、安定した仕事、良好な住環境などをバランスよく取り組み、相談体制を充実させる。

新たな施策として、三十路事業、民泊推進事業などで本町へひとの流れをつくり、社会増が実現できる地域づくりを推進する。

また、補助金や各種支援制度、相談体制の充実を図る。

Q 鳥獣被害対策は

コジカの日撃情報やイノシシによる水稻被害、クマによる人身や作物被害が相次いでいる。今後、被害拡大が危惧されるが、有害鳥獣に対しどのような対策を取るのか。

また、鳥獣被害対策実施隊の成果と活動状況はどうか。進入防止柵設置は、町全体に行き渡るように計画的に行う必要があると思うが、どう考えているのか。

A 侵入防止柵で

町長 山崎 英樹

イノシシ対策は、国に侵入防止柵設置などを要望したが、不採択になった。来年度に向けて、しっかり準備していく。シカ対策は県と連携し、捕獲実証モデル事業に取り組んでいる。

また、クマによる被害防止のため、規制緩和を県から国へ要望してもらう。

A 組合設立で体制整備

産業振興課長 大谷 哲也



7月末までの成果は、イノシシが69頭、シカが8頭などで、昨年度より増加傾向にある。

また、猟銃取得補助は2人から相談があり、他に1人の交付申請があった。

実施隊は48人で編成し、クマの監視パトロール7件、シラサギ対策1件で、出勤延人数は60人だ。

イノシシ対策は個人には限界があり、集落等で管理組合を設立するなど、体制整備していきたい。